

# 平成27年度 第2回大阪府立今宮高等学校 学校協議会 記録

日時：平成27年11月6日（金）15：50～17：00

場所：本校 校長室

協議会委員（敬称略）

吉村 和彦	芦屋大学教授 元今宮高校校長
竹村 弘文	大阪市立木津中学校校長
藤岡 靖夫	自彊会会長
安東 仁美	後援会会長
鳥津 刈野	P T A会長
山本 英夫	戎橋商店街振興組合事務局長

## 1 校長挨拶

来年度の入試制度の変更について。

- 総合学科も前期入試から後期入試（一般入試）へ。
- 府立高校の入試制度が変わり、どの程度影響があるか。
- 今宮高校のモットーは『磨け知性、輝け個性』  
「勉強だけでなくクラブも一生懸命取り組む生徒」に是非来て欲しい。

## 2 協議会委員および事務局員紹介

## 3 事務局からの報告

### ①授業アンケートの結果報告とこれからの課題について

授業アンケート比較 H26 年度平成 27 年度との比較

傾向 ●同一年度では、学年が上の方が、評価が高くなっている。

●同一期生では、学年が上がると評価は高くなっている。

2 年生 ⇒ 3 年生（18 期生）、1 年生 ⇒ 2 年生（19 期生）

●H26 と H27 の同学年を比較すると、評価はほとんど同じ。

課題 ●「生徒の予習復習」の項目（動機付け）がすべての科目で評価が低い。

### ②平成 28 年度学力検査及びアドミッションポリシーについて

●前期入試から後期入試へ（3月10日木 実施）

学力検査 5 教科×90 点（450 満点），調査書内申点 9 教科×5 段階×10 倍（450 点満点）

学力検査・・・国数英の問題レベルはすべて C

学力検査と内申点の比率 7：3（タイプ I）・・・学力検査×1.4 倍、内申点×0.6 倍

●アドミッションポリシー・・・各学校とも「どういう生徒を求めるか（望む生徒像）」を公表

●ボーダーゾーン内においては、アドミッションポリシーに「極めて合致する」生徒を優先的に合格とする。

### ③保護者からの意見・・・特になし

### ④平成 28 年度使用教科書の採択について・・・特になし

⑤□平成27年度学校経営計画の自己評価について

- 今宮高校生としての意識を高めるための取り組み・・・始業式・終業式などで校歌を歌う。
- 模擬試験の結果と国公立大合格者・関関同立合格者の関係性の分析
- スタディサポートの分析・・・学習習慣の定着が春から秋に向けて向上した。  
現時点でどれくらい家庭学習ができているか、今後に向けてどんな課題があるか検討
- 展開教室へのプロジェクト設置

⑥□私費会計についての改善策

銀行印を自彊会・後援会の会長管理とした。PTA監査を年2回から4回へ。

⑦□創立110周年記念式典について（平成28年11月12日）

- 式典は本校体育館
- 今宮高校110周年+総合学科20周年ということで、本校軽音フォーク部卒業生、総合学科卒業生で現在活躍されている方の講演などを検討
- 記念品としては、自彊会は校旗のミニチュアを検討。  
1月に各部会で記念品としてどのようなものが良いか話し合い、春くらいには記念品を決定。

4 協議・・・自由討論

- 今宮ブランドの高揚として、今宮高校の歴史を伝える取り組みをしてはどうか。自彊会の由来や今宮高校卒の人材（それぞれの時代を作ってきた方もいる）など、在校生が今宮高校の歴史を知ること、より今宮ブランドの意識が高まるのでは。
- 高校入試が後期入試に一本化されたことで、中学生の指導として今まで前期と後期で2回あったチャンスが1回になる。私立高校との兼ね合いもあり、府立高校の受験は「手堅く」受験することになるだろう。
- アドミッションポリシーの理解が非常に難しく、受験生に作文させる（自己申告書を書かせる）のが非常に難しい。ボーダーゾーンに入った生徒の可否をどのように決めるのか。
- ボーダーゾーンに入りそうな生徒を受験させるのは不安である。これまでの前期後期2回受験機会があればチャレンジできたが、「内申点が高いから頑張れ」とはならない。
- 今宮高校の志願者倍率が上がるか下がるか。駅近の高校は上がる。人気校は上がる。今宮は倍率があがるのでは。
- オープンスクールに来た中学生が今宮高校に行きたいと考えていて、高校入試で自分のPR文を考える。今宮を受験する中学生のPR文をきっちり読み取ってボーダーゾーン内で悩まれる高校の先生方は大変。
- アドミッションポリシーの自己推薦書は限られた文字数の中で4つの項目を盛り込むのは中学生にとっては大変。進学塾によっては自己推薦書の指導をしてくれるところも。どの中学生も同じような自己推薦文になるのではないか。
- 学区制がなくなり中学校が競争して、その中で高校を選んでいくので、中学校の先生の力量が必要。
- 高校からすると、学区がなくなったので今までより中高連携が難しくなるのでは。中高連携に際限なく時間を取られ、仕事量が増えるので、子どもたちを学校で支えていくのが難しくなってくる。
- 今宮に入る生徒はある程度、小中学校の基礎学力がついている生徒なので、今宮の教育力で生徒達の眠った才能を起こしてほしい。
- 今宮のブランドを伝える活動で、生徒が参加する取り組みとしては、生徒自治会で「今宮高校の紹介」ビデオや「今宮高校の一日」ビデオを生徒目線で作成してオープンスクールなどで中学生に見せている。「今宮高校のOBを調べる」など、生徒参加型の企画があってもよい。
- 自彊会の取り組みとして、自彊会が先細りしないように若い世代に引き継いでいかないといけない。

5 事務連絡・・・第3回学校協議会 平成28年2月16日（火）15:50～17:00